

これらの事業を、I AMAS と共に財団法人ソフトピアジャパンを中心とした、岐阜県のスマートフォンプロジェクトに取り組む団体や福祉メディアステーションと協力しながら進め、タブレット型PCの効率・効果的な運用と、新たな利活用モデル創出に貢献していきます。

楽器が使えなくても iPad を利用し、音と遊び演奏にチャレンジ



(平成22年度
「ぎふ地域子育て創生モデル事業」取り組みより)

■ 障がいをもつ子どもの自立に向けて ～

(平成23年度「ぎふ子育て支援助成基金助成事業」)

当法人では、平成10年より「重度障害者の在宅就業支援事業」の取り組みを続ける中で、障がいをもった子ども達に、『幼児期からの経験の積み重ねにより培われる社会性や感性をいかにして身につけさせ、将来の自立(就労など)に繋げるのか』という大きな壁にぶつかりました。同じくして、相談支援の取り組みの中で、障がい児をもつ父兄より、

- ・家族や介護者の同伴支援がないと、外出が困難な身体及び知的障がい(重複)の児童・生徒にとって、人との触れ合い(コミュニケーション)の機会を持つことが著しく困難である状況
- ・障がい児をもつすべての父兄が抱く、自らが歳をとり、面倒が看られなくなった後の、わが子の将来に対する大きな悩みと不安をなげかけられました。

障がい者の就労を考えたとき、教育(含、職業リハビリテーション)をはじめ、あらゆる分野との連携の必要性を痛切に感じています。



PCを利用をし、夏休みの宿題に取り組む

テクノロジーと医療技術の進歩により、これまで障がいとされてきた一部の領域が障がいでなくなりつつありますが、障がい児が同年代の子ども達と同じような、ものの考え方や社会性、そして能力を身につけることは、その子ども達が将来自立し、自分にあつた生活環境を選択し確立する上で、大変重要なことです。このことは、親にとって、わが子の自立への不安の軽減に繋がり、日々の生活の上で精神的なゆとりが生まれることとなります。

それまで以上にわが子に接し、将来像について幅広く考える機会が増えるようにと考え、当事者の立場より、把握している限りの知識やノウハウと、全国の先進的な事例等に触れ、生活の質(QOL)を高め、可能性を大きく広げることができればと願って、平成22年度は、岐阜県「ぎふ地域子育て創生モデル事業」を受託し、「重い障がいをもつ幼児・児童

ならびに父兄に対する、QOL向上のための体験教室・研修会開催事業」を実施しました。

今年度も岐阜県社会福祉協議会より、「平成23年度ぎふ子育て支援助成基金助成事業」を受託しましたので、昨年の事業の成果と反省並びに父兄の声を踏まえ、「重い障害をもつ児童ならびに保護者を対象としたQOL向上のための学び・体験の場(塾)」として、事業を実施しています。

今回は、児童・生徒一人ひとりの意思(自主性)を大切に、個々の性格に応じたきめ細かな支援事業の一つ「障がい児童のための夏休みQ-u p塾 ～人との出会いとコミュニケーションを主とした学びと体験の場の提供～」についてご紹介します。

